

2011年3月期第2四半期決算・中期経営計画見直し説明会 主なQ&A

- Q 今年度下期の営業費用が過去の実績と比べて高水準となる見通しなのはなぜか。
- A 上期の修繕費の執行率が低かったため、下期に多く執行される見込みとなっていることが主な要因である。当社の費用計画は年度単位で作成しているため、上期の実績に関わらず、通期では計画通りに執行されることとなる見込みである。但し、昨年度の営業費用が経費節減努力によって結果的に見通しを下回ったように、今年度も少しでも少なくなるよう努力はしている。
- Q 「近畿エリアを中心とした線区価値向上」の取り組みのうち、具体的な設備投資を伴うものはどの程度あるのか。
- A 自治体と連携・協力しながら輸送改善や新駅の設置、駅ナカ・駅周辺開発などを行っていく考えであり、当社として大きな設備投資を伴うものはないが、インパクトは小さくない。自治体の協力を得ながら進めていくものが中心であることから、中期経営計画期間中にすべて完了する訳ではないが、いくつかは具体化できる見込みである。
- Q 固定費の低減に向けた「技術による変革」の取り組みの時間軸はどうか。
- A 例えば電池電車を開発できれば、電化設備一式が不要となり、修繕費用の大幅な低減が可能になる。具体的にいつまでという目途がある訳ではないが、技術開発によって経営を大きく変えていく意気込みで取り組んでまいりたい。
- Q 2013年3月期の減価償却費が連結ベースで1,700億円程度と高い水準となる見込みであるが、制度変更に伴う残存5%部分の償却が2012年3月期で終了する影響を織り込んでいるのか。
- A 織り込んでいる。減価償却費については、中期経営計画期間後も北陸新幹線開業に向けた設備投資など、一定規模の設備投資が見込まれることから、大きく減少する状況ではないと見ている。
- Q 中期経営計画期間後のキャッシュフローの使途の考え方はどうか。
- A 現時点で成長投資、株主還元、長期債務縮減という順序を変えたいという問題意識がある訳ではないが、中計期間後のキャッシュフローの使途については、もう少し様子を見たうえで、次の計画を考える中で検討していく。
- Q 配当について、2013年3月期に連結DOE3%を目指す上での前提となる「プロジェクトの成果が実現すること」の意味合いはどうか。
- A 具体的な売上や利益の数値ではなく、プロジェクトが当社の戦力として追加された場合にどうなるかを見極めるという意味である。